

# 溶連菌感染症

## Q 溶連菌に感染していろいろ いわれ、今後が心配

三十一歳、女性。専業主婦です。七歳の息子のことでご相談します。先週末、熱っぽく、のどが痛いといって泣きやまないで、かぜと違って様子を見ていましたが、食事もいやがるので月曜日に病院に連れていきました。病院で診てもらったところ、のどに大きな炎症があり、溶連菌に感染しているといわれて抗生物質をもらってきました。溶連菌ということばを始めて聞いたので、家に帰ってから育児書で調べてみたところ、リウマチや関節痛、腎機能障害を招く恐れがあり、今後が心配になりました。もうとり返しがつかないのでしょうか。また、今後の再感染をさけるには、どのような注意が必要でしょうか。息子は現在のはどの痛みも消えたよう元気な遊んでいます。

(群馬県 N・K)

## A 症状が軽快しても完治まで 医師の指示にしたがうこと

**溶** 連菌感染症はA群β溶血性連鎖球菌(略して溶連菌)という細菌による感染症で、とくに幼稚園から小学校低学年の小児に扁桃炎、咽頭炎として発症します。主として保菌者の鼻咽腔分泌物による直接飛沫感染で、とくに発病初期に感染性が強く、健常者に感染すると二〜五日の潜伏期間をおいて発症しま

す。小児の上気道感染症のなかでは、かぜ症候群と並んできわめてありふれた疾患です。急性上気道炎、いわゆるかぜ症候群の多くはウイルスが原因ですが、約20%は溶連菌によるものです。ウイルスが原因である上気道炎は、数日間のせき、鼻汁、流涙などのあとに発熱することが多いのに比べ、溶連菌によるもので

はあまりかぜ症状が明らかではありません。

溶連菌による場合は、突然に40℃前後の高熱、咽頭痛などで発症し、頭痛、腹痛、嘔吐、全身倦怠感などの症状が出現します。扁桃や咽頭は著明に発赤し、扁桃には汚い膿苔や膜状の滲出物が付着して、軟口蓋に点状出血が見られます。頸部リンパ節もしばしば腫脹して圧痛をとまいません。

また合併症として、感染後一〇〜二〇日で非化膿性二次疾患として急性糸球体腎炎をとまなうことがあり、リウマチ熱発症の原因ともなることから、溶連菌感染症は、小児科領域では重要な感染症とされています。

合併症としての腎炎はそれほど多いことではありませんが、溶連菌の診断が遅れたり、治療せずに放置したりすると、発症することがあるので、疑わしい場合には尿検査や血液検査が予定されることもあります。

ただし、リウマチ熱の発症は近年ではきわめてまれなことです。ですから、いたずらに恐れることはありません。溶連菌感染症の治療が不十分であった場合には、急性中

耳炎、頸部リンパ節炎、扁桃周囲膿瘍、副鼻腔炎、丹毒などの皮膚化膿症、肺炎、敗血症を引き起こすことがあるため、この点は注意が必要です。

ところで、猩紅熱という病気をご存じの方も多いと思いますが、じつはこれにも溶連菌が関与しています。猩紅熱は溶連菌が扁桃に感染し、のどが痛み、高熱をだし、全身に赤い発疹が現れる小児の伝染病で、昔は死亡率が高かったため、現在でも法定伝染病になっています。ただし、現在では抗生物質による治療で早期に軽快するため、医師の間では猩紅熱という呼び方をさけて、溶連菌感染症と呼ぶことにしています。

溶連菌感染症の治療の目的は、現在発病している急性感染症を治療すること、急性糸球体腎炎やリウマチ熱の合併症を予防すること、家庭内や学校などでの集団流行を予防することです。溶連菌感染症が疑われたら、早期に十分な抗生物質治療を開始する必要があります。治療を開始すると症状は数日ですみやかに軽快します。

しかし元気になったからといってすぐに服薬を中止してしまうと、短期間の服薬では

再発が認められることがあります。ですから、医師の指示にしたがって治療の完全を期することが重要です。

必要な場合は治療終了後に咽頭細胞の培養で溶連菌が陰性化していることをチェックします。

また、このチェックを患者さんの家族に行った場合、約40%が溶連菌陽性で、そのうちの50%以上は発症するといわれています。ですから、家族内や集団感染予防の目的で、患者さんの家族の方にも抗生物質の投薬が行われることがあります。

## 回答者

笠井耳鼻咽喉科  
クリニック院長  
**笠井 創**

